へ13
1142

町甲圍

完

へ13
特別 へ13 1142

特
門へ
弾1142
巻

明治九年
九月九日

粹町甲国自序

君ぶ子孫と呼ぶ無て天地と知。

爲かあく中嘯ば揚揚へ

朱がこぶれたと照る。富山と

いふを向て安

明治三十七年四月二日

きんぐと。先走る通の意地中。
酒屋とは。あつく。海義高乃。
辛人。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ。
飯をくひ。寂しく。ぢやくも
青束ゆ。紙表。かぜ。とは
外記を指。ゆゑ。後伺ひる
べきゆゑ。ぢらられた。式一冊。
甲状。秋。活乃。ゆゑ。ぢ
並べし。稼。丁甲。ぢ。ぢ。
ものと。第。知りぐ。器

春

山平太馬庵人

花扇

小便桶のうゝ乃

厠小屋序

鞍町甲冑玉序

大士さんの御冠より曰。驛あて雲驛ありゝ。あるもふしぎ。

ありゝもあもあるぎあるもこゝよ

山よ葛康人が甲驛野紙乃

一歩。ふぎれあるとゝ

ゝ。書林文屋安旅あるもの。好い

味を尋てまゐりて。庵に向ふ。
来てゐる。稚町宇宙の水枕。春の
蓮べ行りんとす。春郷の序
とせむ。予書林に為序をと
る。元三千三百三度。三物
序とうたあり。彩不二山を
と結なくて。多くれ中で

こゝろんの。物よ度〳〵序
とする事。義理一序乃あゞ
けきあゞ。そのあゞまき林
けきくまとあり。日あハ何度
詰らぬ〳〵。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

粹町図

魚田は火の影さゝ寒くして何をうやく
驛路の鈴は聲ハ夜山の手かゝ下町う
ゝ[illegible]名ゆ[illegible]およ逢坂ゆくて大木戸のせき
おんぐのう昇きゝう知るきぬし通ひ振
てうどメくる其数さ八十軒除の茶屋丈
み物粉呑てしゝ新粹所まぐ

給つけぬ野暮奴意気な人柄いのこと
風うれそめ楽しみ傾のよ
祝へ盃一寸先やくもうちたく
さかりとれ高川ぼりと客濃車ふめく食
を食ふへう 想夫恋川 ろちやアいや 浪車
せりかく大吉ぶ打ぬく注ぜく 浦川
ぬ色でといやるものなんく松吹さんく

のうちくをうしたつケ 浪
おらんふしのびや 川 松吹のさんく 浪
大きな長で 松吹 あんでございを
名のかしぶ名くあういす 川
お前お盃を好あんせんち 松 ろぐち
むしりやアいや 川 ろちもたべいす 浪
ぶやんハいやぶとらいつぶやア 浪 川 連

あれむ[illegible]のさ 丟 ちつちゃの[illegible]
あま 隆 そうぞろ[illegible]
[illegible]め云[illegible]の 川 [illegible]
[illegible]の[illegible]い 隆 それでも[illegible]
川 [illegible]云[illegible] 隆 [illegible]いて
く。 澤 まつ[illegible] 松 そんあし[illegible]
を[illegible]あ[illegible]の[illegible] 子孫お文 あひり 川

お文やし 文 あひり 松 ヱ、[illegible]
さ[illegible]きう[illegible]なあナ 文 まで[illegible]おアあの
用[illegible]て[illegible] 川 ナゼ お[illegible]さん
文 おぢ[illegible]ん 松 そうぞらう
よ。何 うりあ[illegible] 川 おやゆびを
[illegible]とばつ[illegible] 川 [illegible]の 松 そうぞ
うよ。ぞてもさ[illegible]ちのあのぞかのぞ

この〳〵の 文 アイ 伺の出用でおぜんすく
川 エ、せさう〳〵 祝へるぞ。アし あすこよの。
茶屋ぐるまぐるまあれわく 菓アくんぐきや
文 あいやくをおてちく 淀 おぜんさん〳〵ハアノ丈のるる
へのう 松 ナニサ 丈ハ ぶ〳〵いハナ 川 ぐ〳〵ぴぢう
お茶ぐ扉下でゐる ぶうけあんもしこのさ
淀 ウくあのあのまあ 松 嘘アア 祝へく 文
アイ お茶アおく〳〵めうりみる〳〵 松 よりく
ちく〳〵ザアア 川 さん 聞ういさ〳〵い 川 待
ちめんし。茶屋を 聞 ぶ〳〵いぢう。セしおお心
おのくまめんちく〳〵 淀 嘘 祝へ〳〵ぐやアさ
川 ヲヤ〳〵丈〳〵 淀 ナニ さうきやアちつと
ちアア 嘘 めく〳〵のを 川 あまでぶさく〳〵と
く。虫のちく ザアア ちんぶ〳〵 番〳〵とん

ちよう〳〵 松 いかもの古板〳〵いぬしの
ゆう〳〵〳〵 淫 アイ五六板〳〵アわかちぶ
新。ぞうりの面へ〳〵いおゑの家さ
しお冨塔ぶ〳〵うんなんく新とそのぞくを 松
ひさうん物を〳〵〳〵あんと 淫 コレ
さんきのあをいかさ祝へうの川ほんよそう
たうけしたをぶけ物 松 うやあんぶく

川 物よ潮〳〵小あさ 松 ヨつちやアみ
おちやぶ おびよ〳〵あまいぶの物うとこう
ひ〳〵〳〵よ 川 こアとあるあ弟屋のぶう亭
さんぶ潮のこやげる弱〳〵アんあや
いりそよ〳〵おぜんを 松 淫車さんえく
おくんぬん〳〵 淫 ナニ り物祝へそ〳〵ぶ糟
でしなあるせく 松 ヨ、塔〳〵しんの 川 ドレ

わうちぐあんくよんせう。コレ是程の
者ものヲ 淀 松野さんよやらハ指しの
かしらさ 松 よりゝ見くらべるあるやう
けり名えびくらべ事なり 差者伊八 二うんの 淀川さんゝ
とりへぐもゝ見へ者ーきのはまで 淀川さんサラ
ゝ事ゝりおーくくくちぐ名ゝ
さうきうゝ四ゆハナ一すとかそのあん
川 ぐくゝも 淀 帰の 淀ぎぐゆゝ
くくものをとくくくる 淀 淀う 来くくゝゝ 淀
たぐの 松 氣なりむやんさあんよさうゝ
ゝて達 淀 淀ぐのヲ 淀 屋敷くものう
松 ナニサ二人あぐくめくくさ 淀 孫ぐ一
挺くくゝゝ ぬぐのかれぐ有ゝめくくゝ
ぐぬゝ 松 くれ癖きんくさ
淀 丸さん おくゝ 淀 くんぐ事さの

[illegible] 松 ナニサ 引[illegible]き 淀 お茶ハ 松 [illegible]
[illegible]ノやハ[illegible]男 淀 ス[illegible]ん[illegible]ん 松 ナアニ[illegible]
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん 淀 [illegible]ざ[illegible]う
松 本[illegible]ん[illegible]さ 新さゝの声 奥さゝきの方[illegible]ん[illegible]
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ん

淀うらう山しいの 川うらう何ぞ滝山ぶし

〃 淀ゆき来〳〵客りさ 川あぜく 淀金ぶ

んくの 亀四方じゃうら 川ゑくから滅さう

ふぬとひちゃんきそね 松 淀ゆ来く 川

武さんさ 松 うてこうしゑ坊ふ

んしくう 川十二月 耳ぶしゆしゑ 松 ゆこ

おれじゃ〻の 川 どうもいうう法らぬ

〃 淀車ら方 ほんよどうしくようろう

屋〳〵 松 どうともゑくるにさし命へで

お法〳〵ふんしおさうぞく 淀 ナゼいよ

あさぶう 松 又淀めくうやきう 淀 船

ゆふ来さくる来 松 あぜく 淀 ちゆ来

さの〳〵ぞりの 松 ゑく と淀車ゆぜうとこ

淀 ちんぞう淀ゆ 船さう してあんの

川 かわと ちうり ぎもつてくぞよ 淀 ぎわつてくうの
ぎれくぐろくぬもいくく稲くろく 川 いく
よくまごくせおおのよいれ稲くけるやア
淀 稲くろくぐる。あのね 淀 やすぐきく
うう繁てくといくるうきくいくばくく
あいちぐぎもつてく 川 いるくサるのやア
ぐる 淀 ちんおやもあのやもいく稲ち

あつちイあくぐちくせたぐるあ郎ぐ
を踊るふるふめくといつく車れちん男ぐ
川 ちくいいちんもちやアぐくもあつち
イもいうまやちん 淀 ナゼいくまてこ男
ちくくものぐ行もくく理屋ア稲く 川 リレ
おんあふおうくうちいひあんくちやア
いいまでも 淀 おぐくぶ出ぐくいのサア行ち

いとねんごろにいとさがもとめ　四　そのおしてをん
ぶんぶんうんおかゑ又後ア　えちやア　きちあん
ぶんう　淫十二　御ぶんでやるものを　四　そして
おおぶしとうおくおくおくんぶんうく　淫　ゑ
ゑすさ　四　そんあうちやアあのちイぶき
ゑるそう大吉やりく　子供大吉　あいう　四　こと大
吉やうくるたうう乃　ゑれ　菓子　やゑう

かくづけての　如　さんあつちのくゑむこと　盃イ
ふく　淫ねく　ゆうこのゑ　ゑいけとおて　来て
の　此　頭　ゑ　ハあつちイ　持て　御てくりや
香　あいうくつる　四　おめく　菓ア　香　ゑんせんう　淫
いやりく　呉せく　菓ゑされて　知ラ　四　ゑんれ
ゑすをいひぶんすゑしてちあう　淫　そんあう
いゑめくくちうく　座　ゑや　庫　ハやうてゑア

まゝ福へぜん 川 そりやあなのようなんふう
行て来いすよ 隠 ウ、いきやり〳〵コレ大きく
れと蔵福へう 大 いやく 川 ホこあひそうの
福へいしようゞのヲコレ家ばつけてくりやよ
とかたり 大 あいうゝ一けいたあいてお体こりくん〳〵 隠 蔵こいう
ゑへう 大 まゝうゝへ とたなぞやんさけてれくさしさく 奥座鋪 川 ちう
寝たう 大 アイ蔵ふんけさゝでおぎんけ 川

客武者文芸雑 そしてあつちいすん
ゞうの 川 おあ ゞちあんけふさつぽうもひ
ちゝ市ぢうさんおせ話でおぎんゝゝ 茶屋
新助 ナニ ワゝ〳〵ハ何もきゝ指ますいおぜん
ぜんお彩たよおあ蔵形でゞきんゝゝる
こぢうあんゝゝ 川 大きよさいの
てもぬゝやア逸くぢんうり来あんす

ゆうろちよ苦労をかけあんまする 武 私
を買うまいられどゝ門がやうまいでつる
亀ゐるじやてそれよりふい又傳蔵殿の
所イ祝儀ごとでるだれくゆる物亀ゐの
たよ 茶屋 ろ理でおまいつもり大ゐお亀
うぐりおれてあんてもおめでさに
お銅を見くしおせく 武 ゆくゆくぐる

奴じやの時ぐれ時ふい 川 ナアニもも
よくゆんく行あア遅みおぜん夢 武
持れもそくいの 茶 見邪あげまとう
武 押うくう 茶 マアド上ゆ サアつぎやせ
う 武 ラフトゝのくきもも忘らく傍ぐ
ぐい 茶 市祝義事ごい何ぐこぐまも傍
武 役者の祝儀さ 茶 屋へり 大吉 吸ものアイおて

はづ亭さんちうとさちうちィ者ぐおくん
おくんあんし 茶 ヲフトお吸物ら えく
ようこしやサアお吸ふきうまし 美濃伊
四郎ゑんぶんハ毒ふおもあきうまもまた
武 伊ハ先生うとくしやし 脇しく源
しくるあのサアおふとりの呑まく 伊 ハイ
有難うございまた 茶 ドレつぐふ 伊 ハイ

ハおゑ思ぐでごぜんたアとこあいこぐを
やしく 茶 お者ハ 伊 アイいく とのこをてア下よおきなん
ふ四郎ハおくしぐりでござうまるね
武 ゑまた者じやうゑ源しく源
ぐふ 伊 なんりうゑんふお呑しござうま
あしくつけ 武 サアあ者アたうく と手紙とこ
伊 これハを郎うござりまたとたんで
たところく 武 ど

うじやさうちうハ狐ふうの 侍 アイ お商ひ
おまん先どちらハ姫の角のふ郎で大
ぶるぎやうでござりまして 武 ゆくでは
けつく男門うりハよぎさふての 侍 ない
さは合でござる まあたかんよお屋敷へう
もふ門乃うあうとちどふこさりませふ 武 大
きよ迷いられどもうんとあいなりのて

れもうろ男いの乃 茶 どうでもお別屋わで
ふんうりハこざりはきん 侍 そうさ 武 なふ
開性イでも性ちうちうまるく 侍 そい
なりうがうこざりまた筆性い和と昌いう
しはんうう 武 ウく 弟るうふいうう人ら生で
ありて 侍 さうづきとそこアるや そうさんおおく
あげう 茶 ナゼめうこうろう 伊 いうよ

そしてとゝ〳〵お徴とゝやさ〳〵 武イヤく
奏も酒もほちゝあひる 伊 それでこも
ちつとお菜漬よあさつて 武 いゝ
伊 ハイそんあゝとゝまいそうさん 菜
漬は 菜 いゝようお菜漬ゝう色づでとのむ 伊
そんあゝ気概よ奏あせへドレ 武 ゝ
菜 そこそれじやアこまぎる 伊 ゝ 菜

丁度さ 伊 左様あゝまゝお庶ようゝ 武
せゝ 武 コレくそうちイ徴ゝ 武 ぶ
塩菜アー 武 おゝゝたまれ 伊 すい
お文やゝ 武 ゝ 菜 ゝ
いゝ毎ふいゝませゝ 四 ゝ一ぷく
でいきふんゝさなとすい解 菜 紐川
いつぶうようゝやアこ撥別ぜゝあげ吸

紙たばこのり上ふごぞんじい 川 ヤ
くぞうせのおくく 茶 ハイやまはみんな
吸ふくくやくさあるきぞんのう
明日はいつものとおりでござりませう 武
さうさく 茶 川さんおやもく 川 アイお
ちくむく 武 佐のやろくをたのむぞや 茶
えんく 川 おむさんよくいろくおくん

あんく 茶 なのい 川 おさくだく 茶 えくきまる
あまでいさくば 武 いくく市川の 茶 ハくく矣ふぐ
川 いつぐも若へまぐも 武 なれでもふ
ちやアいくまいて 文 アイ 坂東でおぞんす
と海川ぐ若く 川 おもぞやアあくぬくよ上りくしや
けるアあがけくくぐ 武 可ふくくくよ
あむらくぐい 佐 家とりくへて来りさなのモウ高く

いつ
ぬけて〳〵ゆく〳〵 [文] ゑんじもせび ゑゑゆく [伊] サアお
床を [武] 何百くぞれ
けうそうちの [川] さうあぎん
あいと床とし [侍] 戻りもそて まくらぶとたづる [川] よし〳〵
何すこのかをぬよあげくあまよ [侍] ゑん
あうふごぜんけハイ出きぐんふう [武]
ヲイ愛たまの〳〵 [川] もそそりそのうまよ [武] うもぬのまくを ゑゑきく移る

[川] きうもふく寝ぬ
あんちう晴へく 床へ入れ [武] つやよし〳〵
こけまくハ遠ふの [川] ヲヤよ〳〵えつけふ
んしさのあうちの [侍] あがまけおしそで
床をば呉いきん [武] 床しもたもんでしよい
えきくれバじやと [川] うそやお茶
おまの出ぬさん よえしそでおあひ

ふんしてさぞお嬢しゝ、おぎんやろう 武
もう山の神よハあきゝ果てゝや 川
つきぶんしー 武 嶮しやいよ 川 それでし
おたの市 秋さ角の市用ハけゝあんきゝごろ
ちが用ハけゝあんしゝ 武 けゝいでハイおんると
いてくごうし 川 そんなゝひすよ 武 あゝさ 川
アノまお歌ゝちが用をけゝておくんあんす
ゝあゝゝぞアノいつうしお咄しゝやいしゝ
くゝ何とアノ変ゝ角をゝておくんなんし
武 今までのハどゝしやい 川 ぞゝも本りよ
ごれいしゝゝゝ 武 まゝぞゝふゝてもしのう
ぞい 川 おんようゝゝておくんあんすと
今までのと同しよきひす 武 そゝゝ何が
よいの 川 ゝんハ緒風夜ハゝゝつゝでも

ようおぎんにきうとばいろくどうしてお
くんふんー 武 そんあるー 川 ワたくしは直よ 松坂で結
らそう 川 やんりくワちやアいつて嬉う
おぎんすようつく 武 そのもうりふ今育ハ 川
ごくごく 武 そ育ハふしぎや 川 ワアイいひ
きくなつさ 武 夢をときやいの 川 待さん
しろちがせもぶーやむ 武 市左衛門せられ

かつこうー 川 よしふんーーと
ありイまへんハナやんよお茶ハさけを
香あんしなぶ明和ん 武 今ふんう
香めん 川 ぬたけお茶のこふんきんう 武
ぬごこは香でもようろうれ 川 たご
こハうちがぬーいすいすー 武 のこ
ちつと愛ようー 川 アイうちやアはごう

じゃアごろ〳〵でご〳〵ふむ
ろ〳〵おいきんよるそれでも元のもま
ねへまつじゃア福〳〵れいきげお茶の
よ〳〵〳〵んやすひまつ元ぶと元ち
おうれ福へきへう相むうおぎんすよ 武
それでもあちへゆじゃあろ 四ノアニ
行ずとあうおぜん 武 うれじゃあいじゃ

四そんはつ寝ふ福ていきねきてアち
つと福〳〵〳〵おくんちんもしよ。 武 寝ふれ
ふぐや 四 ナニサおぎも福ちんしろ
ちやア寝ねするぐちやく 武 おまいれと佛さ
よ日じくろ 其の隆 松堂 寝太さんこちろと
ちのうむきあんし 髮 エ、やう面いごま
つく寝うて紙ろよ 松 まの申ぐろ

ゑんちゃ　おまはんは　こゝらへ　あてもの
かきこゝろ　用ゝがあるゝ　いつゝごろ　松
うへ　先ごやアたれそまいそんえさく
ちやさん〳〵　表　エヽ　小むげうゝ　ゆゑ
よしけり　桐　お前　あのと　後ア　えおすゝ
表　何も　後ア　たちやアたぬく　松　そんあゝ　ナゼ
とらちがゝ　とそちゝア　むめて　夜あ

ア　おぎんせん　表　えでもゝごめくあじや
ア　強く　毎晩かまる　花ごりのそゝてきて
相撲　ぬよまうま　源ゝく　屋の　ゑへ
たゝて　なるハサ　松　そアやアたやみの
ゆアまゝ　ぬへごぶ　んばさごでもそんみ
じやアごぜんさん　表　やんよお　撲で　ゆ
あゝと　今年アちごろさんが　ぬへ

の 松 アイいりも 鮎のそばるけしでふくろ
ちやア 茶やせん 表 茶ごろのすをだて
茶よコレけよとこアとや 松 まこ〳〵とながきこ〳〵てまの
ばあん〳〵 何ぶよういざごなるよ 表 何
ふごの 松 ありやアたーう 滝川さんのあき
ぶこよりさん〳〵 滝川さん〳〵 四 エウ
〳〵 松 滝川さん〳〵 伊 きこうちふ 滝川さん

つすちふふさん〳〵 四 孫さこるしよ ふんごふか 伊 マア
ふく ふを出しかさん〳〵 四 おきて出る どこそで
たう 伊 ふごを ゆら〳〵 いひさん 四 いけ孫ふ
伊 ふんでもつよいきれん〳〵 四 エ いめくま
〳〵のぐ行 表 生姿 後車 女交して 羽をとり 表 ゆ
四 ふんでおぞんぶふ ぬをようる 伊 よしやなぶん
羽織ぐたまこ〳〵へハイ 四 お茶又ふんのふて

おぜんに 淀 よどあげ伽のぶるうちきれもんぎれ
つてくのどうちきのうつくしき藤鼠とめも
ふ姑ずくのとるやうれたつあちやねづる
うふ侘ふこうつくしくと思つく伽をいとぐる伽
つちいやつくぜんまえみくとも呪きしもちやねづ
うねへ 四 うちしも巻ぶつけづつる疑
うあを 淀 それんうまアうぬづ気侘うう記
うるつくお犬ぬのぬ前ぬでも伽物お目定
でかうありまんしやとあば記さうしやるま
愛でしも別侘ふあるうとてあるとうとうくまつるハイうとづ人侘
あるうつてふをうとうくまつるハイうとづ人侘
ふ鬼うつかりんぐあんぼあつづやうあ
ちづのへ客ごとうつく作概の蝸手とつう
やうよ侘されてだまうくみるあじやア

孫へ四ナニお茶とつぶれ物〳〵おぎんれまぐ
うら麻とびお男ひやいせん遊くらえ
くへ埴皿ぐうる苺孫ぐとうく塞ぐふ
くうく周半ぐくまれる地ら四文ぐし
おおむくうぐ寝のしくおくるのしく
いひあんしたじやアおぜんきん遊だれも
一人ぐ寝てくるアア孫へりれぐれれまの

濃まーさうやアちうでもうくれも
それてへ男ひつうれてへで安月を寄く
のぐお月くうくう又寝服のくすりよ
食よ纏めるくくと思ふぐくくじやア孫
へよ四それもはのうちぐくぐいせんうのと
ヤもワうちぐ寝たれぐ寝うおくん
れくう接思しておんりへー遊寝ぐれ

ちやア悪いとて死ぐわるむたくで寝こと
きてくれぬというさま所が縁の伯母まで
ゆくこと口ばくきくだきれるまア初つ
ても新心の縁まで情が移へのぐ今手で
いやアこと移へぐ之門をもれば今夜ごろ
ても貴いれさ義理じやア移へつき 四 夫でも
あつちの客人ち 注 それもまつて居る

あんば勤れ暫ぐとつて襟えよ手加
ぢり有へぐ人やでもまめたくでつ夫
見へも赤見へも知へくよ合じやア移へ
こいらた 四 おじ引 あ意よ知へ赤ありおれ赤見へ
たア嘗のあるを者でおぢんば 注 夫ぐも
つき合ハ知るめへ 四 それも知へくとりいす
注 ちんあへナゼ有へ出さぬへ 四

祖父いとゝ寝まゝゴザ〳〵ゴザ〳〵ゴザ〳〵ゴザ〳〵
あんざとゝさぬきぜるそうとゝゆく 門 アレ伊八どんやとゝさぬ
へる 侵 夢中よえぎゝしてゐ居ハゴザ〳〵ゴザ〳〵
ゴザ〳〵ゴザ〳〵 遊 ゴザ〳〵ゴザ〳〵ゴザ〳〵ゴザ〳〵ゴザ〳〵
さあまも云ゝ寝りだア寝ゝ〳〵
寝ゝ〳〵ゴザ〳〵ゴザ〳〵ゴザ〳〵ゴザ〳〵ゴザ〳〵
走る四のゴのとぬゝ伊八ゴザ〳〵ゴザ〳〵

ゴザ〳〵ゴザ〳〵ゴザ〳〵ゴザ〳〵ゴザ〳〵ゴザ〳〵

まんぢゅう一すゝ粥をとうけのうまゝてあぶお
ゆりあさらゝとおつさんをのとあのてぶ
何のうのと云あすゝくよ伝ゝお段アおこ
あすゝくのぐござりまたゆ遊和ちハさう
だうまようおちやア伊イエまあ何厚あぐら
沢ちくすハやさんば枝ふゝやりのでゆ
ふお歌つまあさらゝとおつさんゝゝ時

あのてぶ虫よお袖ゝやあんさば何のおちう
のこすこもあいとやりのでござりまたら
ゆハひゝう私がお彩ひでござりまゆが
そあハやさぐゝよくおゆりあさりまして又
明晩でもお出あすゝくちさりまそのの時
どのやゝよもお段のいるあゝよ段ゝよせう
せうくお名よゝゝあるすござりまゝても

お別際ぐひよおとれしく行すおつちやんだ
ふおあ敬りあさるりのとなのうのといひあさるハ
あのようぐ多いのでござりまれお家さんのお
云ばあのちとまれうくるとて暇ハお敬りふさり
まして あすの晩かあるんだ出おふきりまし
帰ちぐう現況のおゆきくりかけうがよのうぐ所ぜまんう
見ハ私ぐお別ひぐござるまれハくくくとのかきうけ
ハりくくごちやあん

[浪] 初めのうくらうもあやねハとあ
よ寄てあるまくのたい屋いと云ひ一ねひの外よあくぐ
俠ハ分あてのよくごうよりよ
あぐるりのよあくぐひ年くうんあうくおかさ母よ
めんじて何のよるいまたぶ海るあんの暇ん
[侠] アイサ 明晩ハぐうくとおあの
うんあうよ私ーませくとこハモッるくうう
ぐぐうまれ [浪] サア海る [侠] ハイ左様あくあ
明晩おあきうん庫ーちきぐんうう [浪] お

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よ仲間へ入れく 僧 ぼんくらあるくせてくの
借 ハ、くくよあそ寝くくあるくくもうたら 園
ナニお彩あの袴ふごくくて寝くくまる
ゆぐごぜんに 僧 までしおうがくさんぶん
ぐっ新中ぐ 園 こうちの世ふ元もの寝
てさ 侍 皆記ーヤあさんくく 園 ナニうくく
まんと借さん一つで抓ぐぐ脇うじゃア

ごぜんせんう 僧 うくく見えく元一地ゑ働て
くれ袴へう 伊 アイヤまぐお烟ぐ球ーよくう
ござりまた 園 ナニサ冷ぐよしくく 侍 ハイ左
やくあくゑよとませくく 借 コレ起お
せくく 清見 エあいうくくまぐ早ふおぜんす
僧 ナニ早うあ袴へ 園 かくれのまよ如あくく 僧 わくくふ
アレ鳥ぐおくく 清 ヨヤそけへ寝くく鳴いすよ

初江よう〳〵爲のさハいろでおぎんなよ 清ゑん
ふうとろちやアゝ本の爲ごゝろひゝこゝろ
国 お茶屋がゝ〳〵 初 今ぜかゝんでさゝゝく
侍 おて〳〵さの屋敷ゝとませて〳〵 傷 ヲウトつゝ乳く
伊 何もお者アござりませんゝゝ味噌と燒
てめゝりやゝゝ 傷 おろゝく 侍 ちゝ松ゝ
愛てめゝりまん 傷 ヲイおゝゝさなく 困 坂

記やゝく 国 犬のまゝとゝく 初 おやゝく 清 こんご
ゑゝこ 傷 おまゝひきつゝ おさゝゝこ 仙臺浄
瑠璃 八 国 あアゝやアふゝくさサ 清 せんぐゝとゝり
とゝく 傷 仙臺乃上るりのすゝこんごゑく
よけ屋なゝ人ゝも おきて出る 初 さの せんぐゝとゝやゝせんぐゝへと
やゝかゝうゑんゝ 清 さのゝく 国 ニアつゝ 呑で
さ 傷 なりよ 茶碗ハごゝご 清 茶碗でゝ アイ

さの 初 ろうちぐつぎいをそ〳〵 僧 ヨウト 燈りく〳〵

初 一 豆おぢんすよ 清 ソレこぢれぬすハナ 僧 ハ

ぬとゝ 元ハ 産元の 初 ウ ちそ〳〵ぢ 祝くさそぐ

初 清 ホく〳〵 僧 サア 和尚さそ〳〵よ 困 アイぞぐ〳〵 清

産ぐ〳〵おぢんハ 困 サア つぬぐ〳〵てんふ 折 つぬ

でとんすゝうとゝうョをかゝうあんしよ

困 かゝるゝ〳〵 清 味噌をとんせゝう 困 ちつと

くんふ 清 さの 困 ゆぐかふ アとして 庶吹く〳〵 清 あんぞ

ゆゝくんぞ〳〵ちゆ〳〵のサア 庶吹 困 ちんふきく 卍 お茶

むぐひぞ 消炭をくちせふすつる 清 ヨヤく 堪

忍〳〵ておくんふんし ホ ふくさあをくホをとん

せ〳〵 困 ウ こいつハみそぶ 初 サアさゝゝく 香ぞ

かゝつすちふん〳〵 困 ちてせり 祝くぞ と茶碗を ちよおき

さミせんをひざようきく

せきぐ〳〵ひろくん 僧 ちちと ほをとりて上ます 気ゝり

せんぐい上り 祝りゝやゝかとうぐい〳〵ハ

叔もその後相ゐるのゝ招ぐ夜の漆殺せうぶ
の荒場のヲ云ゑ〳〵あゝ下流のゐいる井のにょ。
でゝぢちをい家サアゞつ三ゑれよハアあゑ〳〵ゝ。
家居かり〳〵柏サア〳〵も尤素のヲ人名頼よ今泥
の夜サかけ・そゝ〳〵中がふかり〳〵と只ちあ夜
も夏もまゞ〳〵いよふだつち〳〵あんでもおれ
さあハ王夜だアゝとゝて・自繁よ平祝王と改
名のおまゝつて・まゞそのゝ時〳〵ゝまやア・こゝ屋〳〵
よあゝ長る夜をバ招墨ち〳〵夜ゝてんあちも
延へ屋をつけ・一家一つ帝示まで柏雷泳ゑ
ちまつのヲ当ちあつて・百夜名と中をゝつ付
初ゝ〳〵よハア王位をゞつたる屋〳〵下心ぶあゝ
いふるをゝ云連とゝふ別長ゑ家長夜がかん
づき・あゞハア青〳〵漆殺のヲたゝ〳〵んゞ者が

勝をとるるアあとおき・ぎりよしたるのち
あぶん孫へヤレよしめされくとせちよ吳れのヲ
あしやつたが・あよがハアせのこるいろぐあよ
ようくあぜくぬへ忠云耳さアよ逆ちと
やしで・後ちやアそのあ泉後を押ちたあとよ・
今恩事ぜんりをあつたしるとたとくのやしよ
みちぐんも達ちハあぶん孫へ朝歌だアのまてき
だアのとがラ起へも皆へきとあぶくめせ・ヤレ
たあ対ちをさくく向へとつくく大孫のヲ
撰れく・先一番よ六孫王孫基後ぐりき・柿
ぬ孫ちくく後の中まをくたづちよ・
ちよが一のヲおぶちあるぬ時・ふくよてく目へ
好ぐあよ位くく・六でハでつかく撰のヲおし
あるゆへ六孫王とハ中とあちや・それでも不思

俵の積屋づよく。いつもぢぎりで仕廻るゝ
ゝ。もしえぐあとゝいふんで。強りと成と中あり
ゝ。ぜんを手ぐめとして貞盛秀衡などゝいふ
大将達が討まゐらせて下つるゝ所なれども何を
いまさらどもゝ成が七人一度でかけ出りそれは
ハア。ふぐ。ぬだとゝいふんだゝゝすぐへよりも
あうたゝゝおぐめせ。そのとき貞盛とゝふ
人はげゝよとこづゐアヨウで。あんでも者ハ
きんたまゝ。茶かゝのを射ぐへとおつて。神ゝつ
たあれども。下の茶柳が射ぐまるゝ。茶かゝ
射づきゝとゝゝ。茶かゝサゞまりと射たと
おぐめせアニさゝあたまるぐへ。ゝ。ゝ。ゝ
落る茶を秀衡が。ゝ。ゝ。押へさゝやとゝゝ
たアとゝゝ。させんとゝをなぐでかんヒぬの

[清] 屋ん や〜 [和] [清] ホ〜〜 [清] そんぐ面白へる [和] を
つ〜何ぞいひふん〜 [困] 又ゆうべ〜さあ
借さん モウ 一ウ [清] まあ客ゆや [困] さうたのう
うま お茶ぐ〜ぐ〜 [清] ひちたア 胡いあを
行ねをん [和] サアつぎい〜〜よ [困] ぐれ〜〜 ときぐまり〜
ぐ〜ア、ゆへサア 借さん [借] モウ ゆうたんあら
おくもり〜一盃 呑う [清] サアつぎねせう [清]

ちんち半分 [清] あぜん [借] 今 胡 [清] つく大ら
用ゴ行るコ [困] 坊れ ハ幡丁の 拾あの ロゲ日
切だぎん [困] 又延金ごろ〜あきこ おら
れねぐス [清] いまやゆ〜おりいるゆア
お乾ア 怖ぐよいけ 行へ小日向のやつさ
[困] あアやアちや [和] ちの〜ぶんきんん [借]
モウいや〜 [困] サアいきやせ〜 [清] さの〜 [和]

まぐ行屋ゞ来ゐきんよ 僧 ぎぐ〳〵。きへめ
さ 僧 あのゐ城 僧 ライよし〳〵 坊 お祝ゐわゞ
裏屋〳〵だくるくへる 園 おれ〳〵たるゞ言
のやゞぐ 僧 よ祝も又目とゆてくればきく
園 ホ〳〵 坊 園 そこよよ拭ゞらゞくくれ
坊 乞くゃるのゆ〳〵よ祝てゐるよ 園 蔵
てしゐゐゆ〳〵ふさ 園 おつくね 僧 行もくふ

ちゃんきんく 僧 いくゐくよし〳〵 園 くんゐり
おさ〳〵ぢる 坊 待ふく〳〵 僧 よゞゐれ
いすめく 坊 ごふ〳〵も保りよい〳〵 僧
ごゞぢおちりくゆよ 僧 アイ おちゞば〳〵 坊
又今屋面白くすを云ふく〳〵よ 園 ちゞぐ
〳〵のちゆれゞ祝りれもゆ廊〳〵 伊 乞ハお
帰りふさうまれゞまぐ嘆うござりおまて 園

よしり〳〵一ぢ中園うりみつけくらう 侍
ハヽ〳〵ちいた杖ちきぐ〳〵ちう 僧おせと
〳〵 侍アイおは出りが発しごぎりあん
園ラクト出ら〳〵 侍ぶんをうアヽ水が溜つく
とりあんモウちつと杖の方イ 僧ライ〳〵
おさしば〳〵ぐりゲ 杉めくるよしちやア発
ぐ発どりが名くよ 園同めつて祝へのとはイ

出して見くら祝へ 杉そしてあんまり
ひきつこしも祝へよ 園とうちちんざはぐひ
寝ふしくよ 杉とうちちもさ 園又寝ちん
せんう 杉お前の方ー一ぶる祝んせう
と家へ入ろうり
いびきのケ合〇ちや明
追出しも書と留や表よハ鑿の者縁よのの
よハ祝見人水さん書めくあらん